

八重ガーベラの品種改良

松川時晴*

MATSUKAWA, T. Breeding of the Double Gerbera

1952年以來、ガーベラの品種改良に着手し、その基礎となるべき形質の調査を行い、次いで交雑組合せの検索をすすめている。

先づ花立ちと他の形質との相関を調べてみた所、葉型との関係では中間型のものに花立ちが多く、細葉にも多いものがあるが、広葉のものは一般に少い。分蘖との間には最も相関が高い。花型との関係では一重が花立ち多く、八重には少い傾向があるが、八重にも相当花立ち多い品種もあつた。なお花型で一重ではコメントの様に盃型のものに花立ち多く、八重では弁の長くて垂れ気味のものに多い傾向がある。輪の大小との関係では大体において、大輪は花立ち少く、小輪に多い負の相関がみられるが、大輪にも花立ち多いものもある。

さらにシケ花との関係では、一般に花立ちの多いものにシケ花も多い傾向があるが、花立ち多く、シケ花の少いものもある。花立ちについては、草勢や耐暑性その他が関係すると思われるが、とにかく、以上の結果から、大輪、八重で、しかも花立ちの多い品種育成の見込みがたつたので、かかる目的で交配を行つた。62組合せの品種間交雑のF₁、1355個体について調査した結果、八重×一重の交配では、八重：一重が、140：181であつて、そのうち採光殿×スーパー・カーミンは八重：一重が13：6、昭和の輝×スーパー・カーミンは12：4、樺ボカシ×スーパー・カーミンは12：6で、八重では昭和の輝その他が母体となつた場合、一重の花粉親としては、スーパー・カーミンが交雑させた場合、高い八重率を発現する傾向があ

* 九州農業試験場

つた。

花色については、紫、紅、桃のアントキアニン色素の系列と、濃黄、鮮黄、クリーム黄の黄色色素の系列があり、前者の原種と考えられるものに *Gerbera Jamesonii* 及び、*G. Aurantiaca* があり、後者には *G. Viridifolia* があるが、これらの組合せによつて、種々な色彩を表はした現在の品種が成立している。分離は色の遺伝を示しているが、特にスーパー・カーミン、コメット、火星は黄及び白を分離し、椿姫、金晃は白を分離した。また、白同志の組合せでも紫、紅、桃を、さらに桃と赤（艶小町に火星、紅孔雀、スーパー・カーミン）、又赤と赤（スーパー・カーミン×コメット、太陽×スーパー・カーミン）の組合せでは何れも紫を分離した。

育成種の中の数種のものについては、花色、花立ち草勢等において、優れた特性を示すものがある。

一方大輪、強健性の点においては、当然、三倍体が考えられるが、現に優秀な特性を持つスーパー・クリムソンはその例で、不稔で、強健、大輪、花立ちは中位であるが、八重品種にも、その特性を入れ得る可能性を予想し、現在、八重と一重について四倍体を育成

しているが、花卉、葉、茎も強剛で、花立ちも少く、植物体は全体に肥厚して居り、極大葉のものもあり、二倍体、三倍体に次ぐ様相をよく表わしている。

交雑による八重の発現率

八 重 × 一 重	組合せ 数	八重	一重
♂がスーパー・カーミンの場合	14	90	83
♂がスーパー・ホワイトの場合	5	17	37
♂がコメットの場合	4	15	23
♂が金晃の場合	3	10	17
♂が帝冠の場合	1	3	9
♂が紅孔雀の場合	1	3	9
♂が舞姫の場合	1	2	3
小 計	29	140	181
一 重 × 八 重	組合せ 数	八重	一重
帝冠×雪嶺	1	1	1
スーパー・ホワイト×雪嶺	1	—	7
スーパー・ホワイト×大不二	1	5	11
小 計	3	6	19
一 重 × 一 重	組合せ 数	八重	一重
椿姫×スーパー・カーミン	2	2	42
舞姫×スーパー・カーミン	2	1	47
小 計	4	3	89